

## 平成28年度環境問題研究助成申請研究について（総評）

環境問題研究助成 選考委員長 淡路 剛久

今年度は、学際的総合研究の募集研究課題を「自然環境の保全と農山村の再生・持続可能な地域づくり、都市・生活環境の改善と持続可能な社会づくり」としてありますが、その趣旨は次のとおりです。

- ・ i) 「自然環境の保全と農山村の再生・持続可能な地域づくり」～ 過疎化・高齢化等による農山村の衰退は、農山村が果たしてきた自然環境の保全機能の弱体化を招き、そのことが生態系のもつ多くの機能の劣化に繋がっています。今日、農山村の再生は、自然環境（生態系）の維持保全に向けた大きなかつ喫緊の課題であり、今後の環境問題を検討するにあたって避けて通れないテーマです。  
生態系の機能回復、地域における第一次産業（生産活動）の今後の取り組み、地域コミュニティの維持再生など、農山村の環境保全と地域社会の再生に向けた課題解決に資する研究を募集します。
- ・ ii) 「都市・生活環境の改善と持続可能な社会づくり」～ 戦後の急激な都市化の進行は、環境負荷の増大を招き、都市問題として多くの課題を抱えることになりました。地域の自然環境だけでなく、都市部自身の生活環境にも大きな影響を与えており、環境と調和した自然共生型の都市づくりが求められています。  
都市における生活と自然環境の持続的な調和や、資源の再利用をはじめとした循環型社会の構築など、今後の都市が持続的に発展していくための課題解決に資する研究を募集します。

- **応募件数は296件**（学際的総合研究50件、若手研究・奨励研究246件）あり、  
**助成採択件数は28件**（学際的総合研究新規1件・継続1件計2件、若手研究・奨励研究26件）となっております。
- まずは**学際的総合研究**についてですが、今回、応募件数も多数あり、内容を見ますと、趣旨に沿った意義深い研究もいくつか見受けられました。しかし、残念ながら昨年度と同様、学際性・総合性の観点から見て物足りない、小ぶりの研究が多い印象を受けました。

## 平成28年度環境問題研究助成申請研究について（総評）

環境問題研究助成 選考委員長 淡路 剛久

研究メンバーに多様性がなく学際性に欠けるもの、技術的な研究や狭い領域での研究であり研究目的も限定されているもの、単に各分野の個別課題を集めただけで異分野の研究をどのように統合化するのかプロセスが不明確なもの等が多く見られました。

学際的総合研究に求められるものは、総合研究としてどう纏めていくかが十分に検討されており、研究体制も十分に整えられていることです。単なる個別研究の集合ではなく、それらを相互に関連づけて総合研究としてどのように体系化していくかの視点・方法論がしっかりと検討されており、それに相応しい研究体制が整えられていることを期待します。

- 次に**若手研究・奨励研究**ですが、こちらについては特に課題は設定せず、若手研究者の着想豊かな研究や新しい分野への挑戦的研究を期待しておりました。今年度も幅広い分野・テーマについて多くの応募があり、着想や研究計画・準備状況がしっかりしており研究結果に期待できるものや、独創性や社会的意義の観点から高く評価できるものも多くありました。

一方で、当財団の主旨である「人間活動と環境保全との調和」との関係がよくわからない申請も多いように思われました。研究内容・方法に具体性を欠くなど、準備や分析不足の申請も多く見受けられ、また、旅費等を中心に予算計画の立て方に問題が見られる申請もありました。